

## 第2回 市立図書館再整備検討委員会 会議録

- 1 日 時 平成31年4月22日（月曜日） 13:30～
- 2 場 所 福島市立図書館会議室
- 3 出席者 西内みなみ委員、川崎興太委員、箭内裕二郎委員、阿部貴史委員、  
波多野清美委員、服部美里委員、佐藤淳子委員、庄司朝子委員、鈴木孝昭委員、  
菅野俊之委員  
欠席者 菅野富美委員、齋藤裕子委員

### 4 内 容

- (1) 開会
- (2) 議事
- (3) 閉会

### 5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

### 6 委員の主な発言

（設置要綱の規定により、委員長が議長を務める。）

- 議長 事務局より議案の説明をお願いします。
- 事務局 (1) 市民アンケートの結果概要について……………佐藤館長補佐 説明  
(2) 新しい図書館本館再整備にあたっての基本的な考え方（案）…二瓶館長 説明  
(3) 新しい図書館本館の望ましい立地条件について……………二瓶館長 説明
- 議長 ただいまの事務局の説明に関し、まず、質問を受けたいと思います。その後で  
ご意見を頂戴いたします。
- 委員 高齢者アンケートの男女の比率はどうなっているか。
- 事務局 男性 45.8%、女性 52.6%、無記入 1.6%です。
- 委員 シート17頁「(3) 新しい図書館本館の望ましい立地条件について（案）」  
についてだが、3つの立地条件で「①駐車場が十分に確保できる敷地」とあるが、  
図書館で十分な駐車台数とは何台ぐらいなのか。商業施設なら計算に基づいてこ  
のぐらいの台数が必要だとか、劇場であれば椅子の数に対する駐車台数等の基準  
があるが、もし、図書館に関して基準や事例があれば、すぐに出なくても結構で  
すので次回以降の参考までにご提示いただければと思う。
- 事務局 その基準に関しては、具体的な整備計画の段階にならないと判断が難しい。  
一日の入館者数、将来の利用人数の見通しなども考慮に入れて考えていかなけれ  
ばならない。そこは、民間の駐車台数の考え方と同じになると思うが、すべて  
が図書館の駐車台数にあてはまるかどうかはわからない。更に先の段階で精査す  
るようになる。
- 委員 「図書館を育てる市民の会」で本館に関するアンケート調査を実施したと思う

が、その結果はまとまっていて公表しているのか。また、図書館の駐車場についても検討したのではなかったか。

- 委員 会員向けへは公表済みです。HPでは公表していない。
- 委員 市民の会で実施したアンケートと市のアンケート結果との顕著な相違点はありますか。
- 委員 今、市のアンケートを見た限りでは、大きく違う点はなく、市民の会で実施したアンケートでも、一番のニーズは駐車場が欲しいということでした。
- 委員 今回の市民アンケートの結果と大差ないとの理解でよいか。
- 委員 そのとおりです。
- 議長 その他ご質問ありませんか。無いようですので、事務局に寄せられたお二人のご意見がありますので、これについてご説明願います。
- 委員 (「市立図書館の方向性について」に基づき、市民に親しまれ誇りとなるような建築(地域のシンボルとなるような建物)ほか10項目の基本構想並びに設置地域に関して資料を基に詳細に説明。)
- 議長 意見も含めて、ご意見をお寄せいただき、感謝申し上げます。  
それでは、次の委員の説明をお願いします。
- 委員 福島市の中央図書館は、各学習センター図書館、あるいは学校図書室を結ぶ中核施設だと認識している。市のアンケートでは、滞在時間が30分から1時間程度が主で、これでは貸本屋だなと感じる。中央図書館とは、そこに行って情報を精査し、知識を自分のものにし、自分の知識の幅を広げていける場所だと思う。飲食スペースがないのも滞在時間が短い原因かと思う。中央図書館は、司書がいろいろな本を提示してくれることが重要であると考え、学習センター図書館及び学校図書館の中核としての役割を果たしてくれる施設と考える。
- 議長 委員の提言については、以上の説明でよろしいでしょうか。
- 委員 一番訴えたいのは、図書施設は直営で運営してほしいということです。
- 議長 提言にすべてが集約されているということですね。
- 委員 福島市は郷土資料が別々の施設に保存されている。ふれあい歴史館のような歴史資料を扱う施設と図書館が一緒になっていけば、資料を1ヶ所で収集でき、市民が福島の歴史を再学習できるような施設としてあって欲しいとも思います。
- 議長 資料をご提出いただいた2名の委員からご意見を伺いましたので、他の委員からのご意見を頂戴したいと思います。  
それではお願いします。
- 委員 お二人の委員の資料も大変参考になりました。委員の資料の基本理念の「3. 知識文化の拠点」という考え方が重要と考えます。にぎわいも必要であるが、そればかり追い求めると中途半端な施設になってしまう恐れがあります。知識文化の拠点という理念の下に施設が存在するというのであれば、人が集まり、結果

として施設の認知度、利用率が上がるのではと思います。

また、図書館サービス網の充実は、配本の流れやインターネット活用などの技術面の強化も重要な要素であると思う。

○議長 事務局から出ていた立地条件については、どう考えますか。

○委員 立地条件には、色々な考え方があある。図書館の本質が一番活かされる場所が良い。東口の施設の中が良いのかどうかそこまでは熟考に至っていない。

○委員 小・中学校の児童・生徒の学習環境や読書環境を考えると、中央図書館に来館する児童・生徒は限られたエリアに住んでいる者に限定されると思う。中央図書館から離れたエリアに住む場合も、夏休み・冬休みの長期休暇や週末などは、学びの場としては活用できると思う。魅力ある図書館になっているという面では、社会科見学やまちに出て商店街を調べる際の経路になっていたりして、また来てみたいと思うような施設になる。子育ての最中の親が、小さい子を連れて来館すれば将来の利用者になると思うので、子どもたちや子育て世代が利用しやすい誰にでも開かれた図書館を目指すことが重要だと思う。

また、学校司書の配置においては、市教育委員会の配慮により市立図書館から中学校区単位で派遣されている。小・中学生の学習の際のレファレンス機能を持っていて、学校司書が教師の支援にあたっている。学習センターと中央図書館を結ぶ機能、学校司書との人的な機能を果たしてもらうことが、どこに建てるか、どういう構造を持っているかよりも、教育の場では子どもたちの学びの改善に役立っていくのではないかと考えている。

○議長 教育委員会主導の学校図書支援制度ですが、学校司書と各学習センターの司書、中央図書館の司書との人的な交流があるのでしょうか。

○委員 図書館本館より、一括で図書や教科書セットの貸出を受けたりする恩恵がある。司書教諭が専任でないため、学校司書の体制を整備してもらっている。子どもたちも、調べる際の相談や中央図書館からの資料を取り寄せ等でお世話になっており、今後も継続いただくことで、広がりが期待できるしくみになる。

○議長 ありがとうございます。30年、50年後の子どもたちを考えると望ましい中央図書館を考えることは重要だと思います。

○委員 小学校低学年、幼稚園の子どもがいて、飯坂学習センターを活用してもらっている。夏休みは、小学生の子どもは図書室で学習、幼稚園の子は絵本を読むなどし、昼食を持って行って、隣の公園で遊ぶなどしていた。レジャー感覚で図書館を利用できるイメージだと堅苦しくなくて良いのでは。

また、設置場所は中心市街地ではなく、緑の公園がある場所、郊外で駐車場も確保できる場所が良いと思う。賑わいがあるだけではどうかと思います。図書館の機能として、ネットワーク網をどうするかは、考えがまとまらない。

○議長 県立図書館のイメージですね。

- 委員 中央図書館の再整備に関しては、福島市図書館配置図をみると満遍なく図書館機能が充実している。アンケートの結果3分の2が図書館の利用経験があり、3分の1が利用経験なしとなっている。中央図書館の位置づけを、3分の2のこれまできちんと図書館を利用してきた方々をターゲットにするか、それとも残り3分の1の図書館に無関係だった人をターゲットにするのかでも、図書館の位置やコンセプトが違ってくる。あくまで中央図書館で、分散している図書館の中核としての再整備なのか。一つに集約し、一つの大きな図書館を造るのか。今までどおり学習センター図書室は機能させた上での中央図書館を目指していくのか。今まで、図書館本館を利用している方々をターゲットにするのはもちろん、利用していない人をもターゲットにするにはどうするか。図書館再整備にあたっては、中央図書館のみを考えるのか、全体の図書館の再整備なのか曖昧模糊としている。
- 議長 事務局でその点はどうですか。学習センター図書室も含め19の施設すべてを検討するのか、本館のみの再検討で良いのか。
- 事務局 全体的な視点で見えていく必要があると考える。将来、人口規模も変わっていく。全体の中で中央図書館をどうあるべきか考えていかなければならない。
- 議長 まだ固まっていないのはありがたい。既存の各学習センター図書室も活用していくということですね。
- 事務局 学習センター図書室のネットワーク網を活用しながら、中央図書館のあり方も検討する。将来の人口が減少していく要素もあり、難しい問題である。
- 議長 これからの人口動態も考えると、まだ検討の途上にあるということで良いでしょうか。
- 委員 市に図書館本館、分館、学習センター図書室があり、それを統括するのが本館というのが私の考えです。本館にほとんどの蔵書があり、その蔵書を各分館に貸し出している。本館なしには市の図書館行政は成り立たない重要な施設と考えている。この本館を建替えることは、理想とする図書館に少しでも近づける施設になって欲しい。現在蔵書90万冊の本がある。今後100万冊、120万冊を目指すのかわからないが、書庫をきちんと備えた中央図書館とするのが基本である。高齢化社会に向かっているということは、郊外よりは、まち中に本館を設置して欲しい。駅前とは言わないが、駅から歩いて10分程度の場所に、ある程度の駐車場を確保できる場所が良い。現在地を図書館にするのであれば、公会堂、福島地方气象台を壊して、図書館本館の敷地にして欲しい。市民会館が他の場所に移転するのであれば、そこも良い場所と思う。
- また、第一小学校と第四小学校が統廃合も視野にあると聞いたことがある。廃止する小学校の跡地に図書館を持っていくのも案だと思う。または、郊外の自然豊かな場所に建てて欲しいとお考えの方もいるかと思うが、宝の持ち腐れになってはいけない。予算規模が15億円は、他の同様の人口規模の図書館建設予算額

に比べると非常に少ないと思う。市の当局には考えてもらいたい。図書館運営に携わった職員、司書の意見も取り入れることが重要ではないかと思える。私も市立図書館協議会委員として、青森県から福島県内までたくさんの図書館の事例を見てきた。

また、図書館長は、公募による方が望ましい。昭和61年以来、市職員の図書館長とおつきあいしてきたが、館長が市の定期人事異動で1年か2年で交代してしまう。図書館行政の熱意のある方にやってもらいたい。設置場所、理念、予算規模、内容を考えると、今後の議論によるところではあるが、あまり郊外でない場所に設置する方が、利用者が多く良いのではないか。郊外では、高齢者は車がないと行けないので、駅から歩いて15分程度であれば行きやすいと思う。

○議長

長年携われてこられたご意見ありがとうございます。

○委員

出版業界の方と話をしたりしたことを基に意見を述べます。須賀川市民交流センター「t e t t e」は駐車場が80台と少ない印象がある。図書館のほかに、展示室、イベントスペースがあり、図書館に足を運ぶきっかけにはなっていると説明を受けて感じた。委員の説明の中で、貴重資料のコレクトは図書館の色を決める貴重なファクターだと感じた。出版社の方の話では、日本国内では本は借りるか買うかだが、イギリスでは、本は売れない、図書館で借りる、図書館を利用する習慣が醸成されている。少子高齢化が進行し、シート19頁にあるように人口減少社会になると、移民が入ってくる。図書館の本も日本語だけではなく、多言語化が必要ではないか。今後は、異文化の人々も考慮する必要があると思う。

○議長

それでは、副委員長にお聞きします。「t e t t e」の7億円かけた須賀川市図書館について、いろいろと資料を頂きましたがご意見をお願いします。

○副委員長

あれでも規模を落として3分の1にしている。資材の高騰などもあって、あのような形態になったが、当初は大々的な構想があった。駐車場がないという話は聞いていたが、いろいろな議論があって今の形になった。欠陥というか弱い面もあるし、また面白い面もあるため温かく見守って行ってもらえればと思います。

私の意見は前回申し上げたものと基本的には同じであります。今日の資料に基づいて述べます。シート17頁にある通り、「(3)新しい図書館本館の望ましい立地条件について(案)」として、「①駐車場が十分確保できる敷地」「②公共交通によるスムーズなアクセス」「③市外の方にも案内しやすい場所」とあるが、私は都市計画が専門、まちづくりなので図書館単体としての話よりも周りとの関係で、場所が重要だと考える。立地条件として①②③を読むと、市の郊外の金谷川に造れと言っているように私には読み取れる。この資料にない場所で、いくつか候補地があると口頭で説明を受けたのを聞きもらったかもしれないので、説明願いたい。

○事務局

この検討委員会の前に、昨年度12月までの期間をかけて「風格ある県都を

目指すまちづくり構想」の有識者会議の中で議論された。その議論の結果として、図書館は、3つについて検討するよう求められている。1点目は、現在地の建替えなのか、2点目は駅東口再開発事業での民間施設もしくはコンベンション機能と複合化すべきか。3点目は、本庁舎西棟建設において議会棟に入る施設として、市民会館、敬老センター、中央学習センターなどと一緒に複合化できないかを検討する事項として挙げられた。

○副委員長

立地については、今のところその3つが有力なんですね。

○事務局

ただし、上記の意見についてほかにも適地があるのではないかとの意見であったり、候補地を一本化しないまでも、こういうエリアではどうかという考え方としてのまとめ方もあると考えている。

○副委員長

何を伺いたいかという、この資料だけ見ると金谷川という市の郊外が立地条件となっても構わないような内容にも読み取れるが、市の方向性としてはそうっていない。福島市として、市民の生活を豊かにするために、図書館をどこに配置すべきかを考えた場合、金谷川といった市の郊外ではないだろうと思ったので、確認の意味で聞きました。

何を言いたいかという、図書館単体だけが立派でも、郊外の大型店のようにそこへ行けば一日楽しめるような施設では駄目で、何人かの委員からも出たが、お年寄であっても楽しめるというような立地環境でなくてはいけないと思うし、前回言ったように、そこにあることにより場所にコンテキスト（立地の意味、状況）があり、周辺の施設とどう結びつくか、まちづくりにどう活かしていくか、市民生活の質の向上に役立っていくかという視点が大事なのではないのでしょうかと前回お話申し上げた。そういった観点も含めて立地条件を精査して、次回お示しいただけたらと思います。

2つ目は、他の委員さんもおっしゃりましたが、全体の中での本館について議論しなくてもいいのですかという意見です。これについては、前回も言ったが、数ある施設の整理統合という考え方もある。例えば、月とか火星とか冥王星、海王星などではなく、太陽との関係を議論するのであって、周辺との関係をどうするか方向性だけでも議論しないと場所すら決まらないのではないかと思います。規模もそうだし財政的な側面から制約があって、これだけしかできないというのもあるかと思うが、福島市の図書館はどうあるべきなのかという全体像がないと議論できないのではないかと。

3つ目は、今回アンケートをお示しいただいたが、子どもも大事にしたほうがよい。18歳以下の意見についてアンケートを実施していないが、意見を聴く必要がないのでしょうか。

○事務局

今回は大枠の基本的な考え方を整理するので、実際にそれが終わってから駐車場の問題も含めて、具体的に使いやすい図書館にはどうするかを考えて、次

の段階で中学生や高校生の意見も取り入れるべきではないかとのアドバイスを  
受けたため、今回は中学生・高校生のアンケートは実施しておりませんでした。

○副委員長 私は意見が違いまして、例えば場所に関しても中学生や高校生はどこなら快  
適に利用できるのか。例えば、「アオウゼ」とかは中学生・高校生がたくさん利  
用している。

現在「アオウゼ」を利用している中学生・高校生が、例えば市の郊外の金谷  
川に図書館ができたときに利用できなくなる。そういった立地とかに関しては、  
高校生はどんなところが利用しやすいか、そのための条件はかなり有力な意見  
となるのではないかと。聞かなくてもわかるようなことなのかということなので  
すが。

○事務局 高校生にアンケートはとっていないが、「アオウゼ」の利用者を観察すると、  
駐輪場に止まっている自転車のラベルを見てみると、福高、橘高、東高、西高、  
その他と、駅より東側に所在する高校生が主で、通学の動線上にある。また、  
福島交通飯坂線を利用して帰る高校生もいれば、JR福島駅を經由して南北に  
帰る高校生もいる。高校生の帰りの動線上にある場所が、ひとつのキーポイン  
トになるのではないかと考えている。

○副委員長 いずれにせよ先ほどの3つの案は、福島市が言っている中心市街地の範囲内  
に入っている。市民にとって居心地がいい、快適に過ごせるようにする場所を  
提供する機能が、この図書館にあって、高校生の帰りの動線上にあるかだけで  
はない要素がある気がする。その時には、先程の3つの図書館本館・分館の役  
割分担を整理するという考え方が出てくる余地もあるのではないかと思う。関  
連してくるものなので、ご検討いただければと思う。

○議長 委員みなさんで検討していく訳ですが、副委員長さんは動線上から考えてど  
こが良いとお考えですか。

○副委員長 金谷川といった市の郊外でなければ良いと考える。

○事務局 今回の検討会の発端としては「風格のある県都を目指すまちづくり構想」に  
基づいて、図書館、コンベンションの機能、西棟の建設等に分かれて検討いた  
だいている。基本となる部分が中心市街地の将来ビジョンというところで、市  
立図書館の場所は、現在地で行くのか、それとも駅前周辺が良いのか。大きく  
分けると駅東口周辺と福島市役所周辺とに別れているのがこの構想の特徴であ  
る。駅東口に関しては、民間の開発が進めており、そちらのスケジュールに乗  
ることが前提になってくる。そのスケジュールに図書館の再整備検討が乗らな  
いとなれば、ある程度の適切な時期に締切があろうかと思えます。図書館とし  
ての立地的なご意見を頂いてあとどうするのかということになるかと考えます。  
また、この意見について、駅東口の駅前でない場所、駅東口から離れてとなれ  
ば、西棟というご意見も検討することにもなる。副委員長のご指摘の通り3つ

の条件を満たすとすると金谷川キャンパス周辺も視野に入ってくると思うが、中心市街地の活性化という論点からは、駅東口または市役所周辺あるいはその他の中心市街地のどこかということを検討することになります。そのような観点から委員のご意見の中にあった場所も検討することになります。

○委員 駅東口のコンベンション施設の中に図書館を開設するという案が、市として検討されていると聞いたことがあります。

○事務局 図書館の望ましい立地のあり方を委員の皆さんで考えていただいて、望ましい場所の候補地として意見が上がれば、全体の協議の場へ上げていきます。今回の委員のみなさんのご意見を聞く限り、駅東口のコンベンションの施設の中という考えはなかったように感じますが。

市として、図書館の望ましい立地場所としての考えを持ち合わせて会議に臨んではおりません。

○委員 そういうアイディアもあるということで、駅前周辺もあるし、現在地もあるし、本庁舎西棟もあるし、学校再編用地もあると思いますが、そういった中で突拍子のないところは考えられないのではないかと思います。

○議長 「風格ある県都を目指すまちづくり構想」の提言の中の意見としては、駅前に図書館が入らないのか、あまり郊外でない方が良いのではないかとのご意見があったように記憶しています。

また、副委員長の18歳未満の意見をどう反映するかというご意見や、他の委員からのご発言にもあったように、アンケート調査対象者1,500人のうち500人しかアンケートに答えていない。もっと図書館に興味を持っている人やそのほかに意見を持っている人などの声を拾って、図書館のあり方がどうあるべきかを考えていかなければならないと思います。アンケートが全てではなく、声なき声も拾って図書館のあり方を考えていく。また、大学図書館と学校図書館との関係、ネットワークをどう構築するか。オンライン等でつなげるのか。また、他の委員のご発言にもあったように、全体像の中で本館、分館のあり方、機能、ソフト面の充実をどう図っていったら良いのか、これからも継続して検討していきたいと思います。

私は、図書館が大好きで、他県出身なのですが、小学校の学校図書館の本を全部読んで、市立図書館に行き、中学校に進学したら、中学校の学校図書館の本を全部読んで、県立図書館に行って本を読んでいました。図書館はすごく大事で、子どもにとって自分の夢や思いを実現できる場所になってほしいと思っていました。福島市の図書館がそうならいいなと思っていました。私は、蓬萊地区に住んでいて、蓬萊学習センターの図書室が充実していて、私の子どもたちがよく利用させていただいて、高校生になっても友人たちとよく利用しておりました。ところが、市立図書館本館のつくりを見て少しか



りました。私の経験ですが、大学入試の時も高校の模試の時も、出題される文献のほとんどが、私の読んだ本に載っていたのが分かりました。

私の意見ですが、福島県の子どもの基礎学力を向上させたいなら、まず、図書館の予算を増やし、本に親しむ環境を充実すべきと考えます。

それでは、皆さんからの意見もお聞きしましたので、事務局の方から今後の日程について、提案をお願いいたします。

○事務局

今回は、「第3回検討委員会」を6月下旬に、先進地視察を予定しております。「第4回検討委員会」を7月下旬に開催し、「基本的な考え方に関する意見(案)のまとめ」、「望ましい立地条件に関する意見(案)のまとめ」を議題に予定しております。

なお、各委員から第4回検討委員会に向けたご意見があれば、5月31日を目途に事務局にご報告ください。

○議長

次回開催の日程調整については、この場では難しいということで、別途事務局より連絡を頂きたいと思います。以上で審議を終わらせていただきます。